

多田羅浩三・瀬尾 撰 編集

地域医療の拠点を創る

— 医師会型老人保健施設の展望 —

(A 5 224 頁 3,090 円 (税込) 1989 年 医学書院 刊)

村田 欣造

(三鷹市医師会)

今回「地域医療の拠点を創る」という多田羅先生と瀬尾先生編集の本を読み、私が感じたいくつかの強烈な印象について述べさせていただく。

第1に、世の中あげて未知の世界、高齢化社会を迎えてと、各地で毎日大変な騒ぎである。私ももうすぐそんな年になり、自分が大騒ぎををすると思うが、同時にそんな暗い、希望のない世界なのだろうか、もっとあつけらかんとした世界かも知れない、どうしようと心配するだけでなく、すでに各地でそれを受け止め、敢然と立ち向かっている各地区医師会や、関係機関の方々がいることに誠に心強い感銘を受ける。

第2に、私は三鷹市という小さ

な地域で在宅ケアをはじめとするいろいろな活動をしてきた。地域医療、特に老人施設を含めたケアのシステムについては、全体管理のできる小さな市町村から行われてくるのであろうと想像していたのが、この本を見ると、すでに大阪であり、仙台であり、神戸、尼崎と人口の密集した巨大都市において、失敗を恐れず、積極的にすすめられていることに驚き、私も井の中の何とかかな、と反省している次第である。

地域の医師会が、市や保健所、大学その他関係機関と連係、調整をとってシステム作りをされている点を私どもは素直に学ばなければならぬ。

第3に、在宅ケアと一口に言っ

ても、後方でしっかり受け止めてくれる病院、中間施設、あるいはショートステイ、デイサービス、入浴から食事、その他ボランティア等の幅広いシステムがなければできないことである。この辺をそれぞれの地区でどう工夫しているのか、今後の活動を考える上で貴重な参考資料でもある。

2年前、三鷹市ではINSというニューメディアの実験が大々的に行われた。私どもの医師会では何とか在宅ケアに利用できないかと苦労をしたものである。その時、スウェーデンからはるばる取材にきたTV局に、私どもは「在宅のねたき老人」というのがどう説明してもわかってもらえず、30分ぐらいかかったことがあった。この本にはデンマーク、アメリカを含めた在宅ケアの実態や老人患者の特性と診療についての解説も加えられている。

地域で老人問題につき、さまざまな試みをしている関係者には大きな示唆を含んだ本としておすすめしたい。